

注) ゴシック体で記述されているものは、外部評価(学校評議員、PTA執行部及び学年選出役員)です。明朝体部分は、職員による評価です。

3 『樹木に巣を作り、飛び立つ鳥となる学校発信・情報公開を实践して成果の見られた具体的な内容』

(1) 学校・学年・学級だより

- ・今年度は、学年・学級便りを積極的に出して保護者に学校の様子を伝えているクラスが多かった。保護者の理解を得、連携を深めるのに大いに役立ったと思う。職員にも配布してくれるので全校の様子が分かり、ありがたい。
- ・多くのクラスが、お便りでクラスの様子をたっぴりと伝えていっているのが、とてもすばらしい。「を始めました。」「をがんばっています。」などは一見家庭に向けて発信しているように見えるが、実はほかのクラスへの発信にもなっていて、いいものをすぐに真似できるから良い。いつの間にか、お便りのおかげで全校の共通理解が成り立っているときがある。職員会議が減った今年度、職員の意思疎通を支えているのはお便りかも。少しテーマから外れるが、お便りを上に上げたとき、返ってきたのを見ると、管理職の方々からコメントが添えてあることが多くなった。一言「ありがとうございます」と添えてあるだけで、お便りの内容が認められたような気がしてうれしい。管理職の方々には忙しいにもかかわらず・・・感謝である。
- ・他の学年、学級のたよりを読ませてもらって、刺激を受けた。教師としての自分自身の在り方を考え直したりすることが出来た。保護者からの反響を紹介することで、たよりが情報交換の場に近付いてきている。
- ・学級だよりに関しては、1学期中に33号発行することができた。保護者からも、「学級での様々な取組を知ることができる」という声が聞かれた。
- ・学級だよりの発行数が増えた。8割の学級が出し、その枚数も驚異である。説明責任ととることでもできるが、保護者や子どもたちの意見も載せて双方向性をもたせているところは、外に開かれ、共育の啓発でもある。プライバシーに十分配慮しながら相互理解に努めていこう。また、全職員に配付することにより他者の実践に学んだり、効果的な指導を追試したりする、力量向上を生んでいることも評価できる。
- ・他の学年・学級のお便りが配られるようになって、他の学年の取組を知ることができるようになった。自分の学年で生かせるところは参考にできるのでよい。
- ・学年・学級だよりが全職員に配布されるようになった。印刷・配布する手間が大変であると思うが、他の学年や学級の取り組み状況を知ることができ、自分の学年・学級運営の参考になった。特に、2年・6年の保護者の連絡帳記述による参画、4年の家庭学習や言葉遣いなどについての児童の話し合いの様子伝えや日記の紹介などを通し、家庭との連携をとったり児童の成長を伝えたりすることなど。
- ・異学年児童との交流を図るために、縦割り班などの活動に取り組んでいるが、間接的な交流として作品交流だけでなく、おたよりによる交流もあって良いと思う。そのため、昨年度までであった「おたよりコーナー」を復活させてほしい。そうすれば、様々な学年の児童が様々な学年のおたよりを自由に見ることができ、交流が図れると思う。
- ・学年便りを廊下に掲示するスペースがなくなり、「配布方式」になって、紙や印刷インクがもったいないと思った。しかし、級外としては、見ることができないよりは見られるので、学級や学年の様子が分り、児童にもスムーズに会話ができる。
- ・学年、学級だよりが、家庭と学校を結ぶ架け橋になっていて、家庭との連携として成果が上がっているたよりがある。担任の思いや願いが本音で語られているところが良いと思う。しかし、保護者の中には「そんなこと言っても・・・」と理想と現実の狭間で悩んでいる人もいることを担任は含んでおいた方がよいかもしれない。
- ・保護者との連携を更に深めるために、学級通信で学級の様子を伝えてきた。従来の表現だけにとらわれずに、保護者に分かりやすいように文章を工夫した。よりよい学級通信にするため、連絡帳で評価をしていただいた。好評だった。
- ・他の職員の便りを見るのは、とても参考になり真似もした。紙はもったいないが...
- ・便りの配布はいいが、提案性のある便りを選び配布するのでもいいのではなからうか。配布するものの選択が必要だと思う。学年便りは掲示して見たい。他の学年がどのようなことを保護者に伝えているのかが、常に見られる状態だとありがたい。
- ・児童の言葉や文章を載せ、学校での様子や児童の思いを伝えることで、学年や学級の方針を

伝えてきた。ただ、こちらからの一方的な情報発信になっているように思う。たよりを読んで保護者がどう思っているのかがつかめない。保護者にも参加してもらえるような方法を考えるなど、たよりの評価をする必要があるように思う。

- ・ 学校での子どもの姿はなかなか目にすることは少ないと思う。各種たよりで子どもの様子を知る親が多いのではないか。しかし、それは学校側が発信しているものであって、相互理解という状況にはないと思う。相互理解というのは難しい。親が直接学校に出向き、子どもの姿を見たりしなければ、学校からの発信だけでは相互理解にはつながらない。まずは、担任の先生が保護者に細かな日々の情報を提供していただき、それに対しての保護者の反応を・・・それがきちんとされるのが理想だと思う。
- ・ 学校だよりの発行により、子どもの様子がよく分かる。
- ・ 学校だよりは、どうしても学校全体の記事になると思うのだが、少しでもいいので、子ども一人一人の顔が見えてくるような具体的な記事があると、読む方も興味をもちやすくなると思う。
- ・ 学校だよりは、学校と地域を結ぶ重要な絆に定着した。次号が届くのを村民は待っている。
- ・ 最近のおたよりはすばらしいと思う。中身が濃すぎてすべて読み切れないほどだ。
- ・ 各種たよりは毎回とても楽しみにしている。
- ・ 各種たよりから、学校の様子が伝わってくる。しかし、掲載されている内容は、よい面が圧倒的に多い。もっと悪い面や課題なども載せてほしい。それに対して、家庭や地域でともに考え対処できることもあるかもしれない。
- ・ 全国各地でいろんな事件が起きているが、大切なのは情報だと思う。用心のしすぎはないと思うので、とにかく情報を流していただければと思う(情報の取捨選択は各家庭で行えばよいことだと思う)。
- ・ 学校・学年・学級だよりは、こまめに発行していただき、毎号楽しみにしている。最近ではデジカメ等も活用されていて、子どもたちの顔も見るのが楽しみだ。忙しいことと思うが、今後も変わることなく情報をいただきたい。
- ・ 学年・学級だよりにより、学級の様子が手にとるように分かるので、とてもよいことだと思う。親もどんどん参加して、学級・学校を盛り上げていきたい。
- ・ 学級だよりは、1学期間に31号もの発行で、今まで以上に学級での取組、先生の指導方針など親にも共通の理解が得られ、目的が達成されていると思う。また、家庭でも、たよりの情報により、学校での様子についてより深い会話が生まれてくると思う。
- ・ 学級だよりは、細かく数多く出していただいて、学年・学級の様子がとてもよく分かる。
- ・ 学校だよりに、学校の方針や行われたことなどが書いてあり読んでいます。
- ・ 学級だよりは、発行回数が多く、学校での様子がよく分かり、写真なども載っていてよかった。
- ・ 今年の1年生は1週間の学習予定表が来ない。上の子は毎週来るし、1年生の時もあった。時間表があるからいいのかもしれないが、あった方が1週間の予定も分かりやすいし、学習の内容も知りたい。

(2) ホームページ・Eメール・インターネットによる関係機関・地域・家庭とのネットワーク化

A 田沢小学校ホームページの整備と活用

- ・ ホームページを開くことができ、よかった。定期的な更新を継続して進めていってほしい。しかし、手数料のかかる仕事でもあり、開設したことによる、反響の把握、有用性や価値の検証も行われるとよい。
- ・ O先生に頼りきり。でも、O先生が、行事があることにすぐ「ホームページにアップしよう」とか言いながらやってくれているので、風通しはいい感じがする。まずは、夏季休業での学年ページの作成をスタートとして、評価は2学期と言うところか。ちなみに、田沢小HPに関して、子ども、保護者の認知度が低い。ホームページがあるということを知らせる意味で、ホームページをコピーした具体的な「ホームページへのご案内」というお便りを出してみてもどうか。
- ・ 前任校で田沢のHPを見たとき驚いた。さらにO先生のおかげで更新も活発である。これもまたO先生がいなかったら...
- ・ ホームページは更新も継続されていて素晴らしいと思う。今後は更新をどのように分担していくのが課題である。O先生がいなくなっても継続するホームページにしていきたい。
- ・ 見やすく、先生も忙しいのにマメに更新されていて感心する。私の利用法は、年間行事予定(PDF)をダウンロードして、ACROBATで着色したり、スポ少の大会を追加したりしている。
- ・ 2回ほど見た。運動会の「よさこいソーラン」の様子など、結構早めに情報を更新していたと思う。
- ・ 自宅にインターネットを使えるところは多くないと思う。どんなことがホームページに載っ

ているのが知りたい。

- ・ 我が家にはパソコンがないので見るができない。
- ・ 家で見た。もう少し内容のあるものがよい。
- ・ 何回かアクセスしてみた。早くみんなに見られるようになるといいと思う。
- ・ インターネットは最近使っていない。近々見てみる。
- ・ 今回初めてホームページを見てみた。学校評価のページを見たが、それぞれの意見がどの立場から出されたのか(職員、保護者、地域)が明記されているとより分かりやすいのではないか。
- ・ ホームページは時々見ている。大変分かりやすい内容になっていると思う。PTAも一日も早くホームページを立ち上げ、リアルタイムな意見交換ができればと考えている。
- ・ PCを持ちながら、まだアクセスしたことがないので近々見てみたい。うちの会社の場合、故郷を懐かしむ思いでアクセスすることがある。田沢小ホームページで、何かの活動で作った作物や小物、作品、作文をプレゼントするという企画はどうか。
- ・ ホームページは、開店休業状態のところが多々あり、少々寂しい。先生方も忙しいとは思いますが、開設するからにはもう少し頑張っていたきたいと思う。
- ・ 意見や要望を送るページはあるのだろうか？

B Eメールの活用(活用例等)

C インターネットの活用(活用例等)

- ・ 家庭科の時間にワークに記載されている情報を得るために、活用した。お菓子や料理の作り方を引き出している児童が多かった。全部のパソコンが接続することができたら、もっとたくさん情報を得ることができたのだが。残念である。
- ・ 6年生はとても重宝している。主な活用は「社会科、歴史の人物新聞作成における調査」、「修学旅行、訪問する施設の調査、また、関連項目の調査」などである。コンピュータと言う調査手段を加えることで、クラス全体が自分にあった調査方法を選択して行えるようになった。(図書だけでは調査する意欲が低い子どもでも、コンピュータならば進んで調査を行う。)

D これらを通して関係機関・地域・家庭とのネットワーク化の現状と課題、将来の展望

- ・ コンピュータ普及数と密着の関係してくる問題であり、そのことを踏まえて考えると、ネットワーク化はほとんど進んでいないと言っている。ハード面の問題は学校ではクリアできないので、ソフト面(意識面)で家庭とネットワーク化を図る手段はあると思う。学校便りのすみにでも「ホームページ更新しました。今回の注目は運動会の様子です。」などを加えて、PCの有無にかかわらず、HPを意識できるようにするなど。
将来は、自校の掲示板での意見交換やチャット討論会、他校のPTAと田沢のPTAとの交流などが行えたらいいかも。

4 2学期または来年度改善を要すると思う実線について

- ・ 運営委員会の議題が多すぎる。議題が多くなると十分な議論ができなくなる。より話し合うべき重要な議題にしばって話し合う必要がある。